

第258回

荒川の 人

隅田川の風に癒され、荒川の街に励まされて。
二足のわらじでつかみ取った芥川賞。

作家 町屋良平さん

【プロフィール】1983年東京都生まれ。2016年「青が破れる」(河出書房新社)で第53回文藝賞を受賞し、デビュー。2017年同作が第30回三島由紀夫賞候補作となる。2018年には「しき」(河出書房新社)で第159回芥川龍之介賞候補、第40回野間文芸新人賞候補となる。2019年「1R1分34秒」(新潮社)で第160回芥川賞を受賞。



今年、第160回芥川賞に選ばれた町屋良平さん。栄光に至るまでの道のりは決して平坦なものではなく、幾度となく作家の道を諦めようと思ったそうです。闘志を静かに燃やし、日々格闘を続ける新進気鋭の作家 町屋良平さんに荒川の街への想いをたっぷりと語っていただきました。

話題作「1R1分34秒」で 平成最後の芥川賞を受賞

「日々の生活の中で長く続けてきたことが小説とボクシング。その両者が自然と結びつきました」と、ボクシングを題材に小説を執筆した理由を語る作家の町屋良平さん。プロ志望のボクサーを描いたデビュー作「青が破れる」を経て、プロボクシングの世界を題材にした「1R1分34秒」を発表します。「1R1分34秒」はデビュー戦を華々しい勝利で飾って以降、なかなか勝つことができず、長年のトレーナーにも見捨てられた21歳のプロボクサー“ぼく”と変わり者の駆け出しトレーナー“ウメキチ”との日々を描いた青春小説。7、8年ほどジムにも通い、一時はプロのライセンス取得を考えたこともあったという、ご自身の経験に基づいた心理描写はロンドンオリンピックで金メダルを獲得した村田諒太選手などプロのボクサーからも大きな共感を得ています。構想から完成まで約半年。そのうち執筆に費やした期間はわずか2週間ほどだったそ



第160回芥川賞・直木賞贈呈式の様子

うです。

今年1月、町屋さんは2度目のノミネートでみごと第160回芥川賞に輝きます。受賞の一報が届いた瞬間の率直な気持ちとは。「緊張しながら待っていたのでホッとした気持ちの方が大きかったです。うれしい気持ちは後からじわじわと湧いてきました。どちらかという一緒にいた担当の編集者さんの方が喜んでいただいてもいいですね(笑)」。普段はジャケットを着る機会が多い町屋さんですが、ここぞという時に着用するという古着屋で購入した赤いジャージで会見に臨み、受賞の喜びを語りました。

平成最後の芥川賞受賞作となった「1R1分34秒」。TSUTAYA町屋店の書籍売り場には町屋さんのサイン色紙も飾られています。

健康第一を信念に 作家活動と会社勤めを両立

小学生の時に漫画家 さくらももこさんのエッセイ「もものかんづめ」を読んだことがきっかけで町屋さんは文章表現の楽しさに目覚めます。「読書家ではありませんでしたが、自分でも何か書いてみたいと思い、見よう見まねでエッセイも書きました。子どもの頃から本とふれあい、人生で行き詰ってしまった時に本や物語の世界が助けになるといいですね」近年、街中から書店が減っていることに少なからず、さびしさをおぼえているそうです。

高校卒業後、フリーターを経て就職。現在は営業職として働きながら、作家、会社員という二足のわらじを履いて作品を精力的に生み出しています。取材当日も仕事を終えてからインタビューを受けてくださいました。作品はパソコンではなく、スマホで書きつづるのが町屋さんのスタイル。帰宅後の約4時間を執筆に充て、血流を良くするために半身浴をしながら行うことも。お酒やたば

こは控え、睡眠時間はなるべく6時間を確保するなど、体調管理にも余念がありません。ちなみにボクシングジムは作家デビューを果たした頃に退会。「体力に限界が見え、技術面でも向上ではなく現状維持になってしまうと思い、距離を置くことにしました」スリルや臨場感といった非日常の感覚が味わえる、他にはないスポーツだと、ボクシングの魅力を語る眼差しが印象的でした。

川のある街、荒川区に寄せる想い 共存感のある街並みが愛おしい

荒川区に住んでいたお友達の家に遊びに来た際に、飾らない街の姿に惚れ込み、区内に引っ越し。住み始めて10年以上が経ちました。休日には心身のリフレッシュを兼ね散歩へ。どこかに迷い込んだような感覚をおぼえる住宅街の路地を歩くのが大好きだという町屋さん。商業ビルなどが立ち並び、たくさんの人でごった返す街よりも、住宅や町工場などが肩を寄せ合う街並みの方が居心地の良さを感じるようです。「公共交通機関の便も抜群ですし、元荒川が流れる埼玉県越谷市で育ったせいか、近くを隅田川が流れる荒川区の街は安らぎます」

お気に入りのお店は町屋二丁目の都電荒川線が見える喫茶店「はまゆう」。どれを食べても美味しいと太鼓判を押す町屋さんのとっておきは、コーヒーと一緒にいただくシンプルな厚切りのトースト。ちなみにお店の方が町屋さんのことを作家だと知ったのは、つい最近のことだそうです。

「これまでの作品では『才能』というものに着目してきましたが、今後は様々な人の『生活』をテーマに『生活』とは何かを考察していきたいですね」

荒川区での日々が町屋良平さんの作品にどんな影響を与え、言葉に紡がれていくか楽しみは尽きません。

この世界逃れあたわざるもの

ひとつは **死** (肉体と魂) ひとつは **税金** (徴収と使途)

みんなで考えよう人間の命と税金!!



おまかせください!!
財務戦略、
等々のご相談も
お気軽にどうぞ!

嘘でもいいから
「ありがとう」と言おう

税理士/行政書士/再生コーディネーター

伊坂会計総合事務所

荒川区南千住5-9-6/ホームページ: <http://isaka-office.biz/>
荒川区南千住5-9-6/Eメール: isaka_office@yahoo.co.jp

TEL 03-3802-1418 (代) 職人税理士34年 伊坂かつやす

北の季節祭り 期間: 5月23日(木) ~ 7月10日(水)

木曽路自慢のしゃぶしゃぶと
ご一緒にお楽しみください。

<p>毛がに姿盛り 3,500円 (税込3,780円)</p>	<p>帆立バター焼き 800円 (税込880円)</p>	<p>北海たこ薄造り 800円 (税込880円)</p>	<p>北海たこ唐揚げ 600円 (税込680円)</p>	<p>アスパラとトウモロコシの天婦羅 600円 (税込680円)</p>	<p>北海握り寿司盛合せ 1,500円 (税込1,620円)</p>	<p>たらば蟹の天婦羅 1,800円 (税込1,940円)</p>
-------------------------------------	----------------------------------	----------------------------------	----------------------------------	------------------------------------------	----------------------------------------	---------------------------------------

ご宴会ご予約承ります。
※無料送迎バスをご用意いたします。※ご予算ご相談ください。

木曽路南千住店
荒川区南千住 5-6-15
電話: 03-5850-5567

グラスドリンク人数分プレゼント

- 2,160円以上の料理をご注文に限りです。
- グラスドリンクを人数分プレゼントいたします。
- 他券との併用はできません。
- ご飲食前に係員にお渡しください。
- 2019年7月31日まで有効
- 木曽路南千住店のみの有効